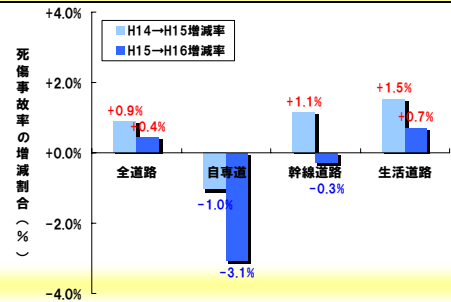


死傷事故率の抑止に向けた取り組みを強化！

**生活道路での死傷事故率が増加
優先度明示方式の活用を促進するとともに、地域の
実情に応じた対策を実施**



(1) 指標の動向

■死傷事故率は、1万台の車が1万km走行した場合に起こる死傷事故件数

■平成16年の死傷事故率は120.0件/億台キロに後退

平成16年の死傷事故率（全国）は、対前年比0.4%増加（暫定値）し、120.0件/億台キロに後退。目標の114件/億台キロは達成できず。

■交通事故死者率は着実に減少。致死率の高い事故を抑止

死傷事故率が悪化する一方で、交通事故死者率（走行台キロあたりの死者数）は減少（対前年4.5%減）。致死率の高い事故の件数が減少しており、事故抑止対策が進んでいることも要因の1つ。

（図8-1, 2, 3）

(2) 達成度報告（昨年度の成果）

■自動車専用道路と幹線道路では死傷事故率が減少、生活道路では死傷事故率が増加

自動車専用道路と幹線道路では死傷事故率が減少。一方で、生活道路では昨年に続き増加。（図8-4）

■死傷事故率ワースト1,2の都県を含む24都道府県では死傷事故率が減少

死傷事故率が前年より減少した都道府県は24であり、過半数を超えている。高知（対前年比6.6%減）、青森（同5.5%減）、島根（同5.2%減）の3県は大きく減少。また、死傷事故率ワースト1,2の神奈川県（対前年比3.4%減）、東京（同1.9%減）でも死傷事故率を減少。

■死傷事故率の増減は都道府県によって二極化

平成15年に死傷事故率が大幅に増加した3県（群馬、香川、宮崎）では今年も死傷事故率が増加。死傷事故率の増減は都道府県によって増加傾向と減少傾向に二極化。（図8-5, 6, 7）

■優先度明示方式(事故率曲線)と科学的分析に基づく事故対策を導入

死傷事故率が高い順に並べた事故率曲線により対策の必要な箇所を明示する優先度明示方式を導入するとともに、「交通事故対策・評価マニュアル」を作成し科学的分析に基づく対策立案を支援。

(3) 業績計画（今後の取組み）

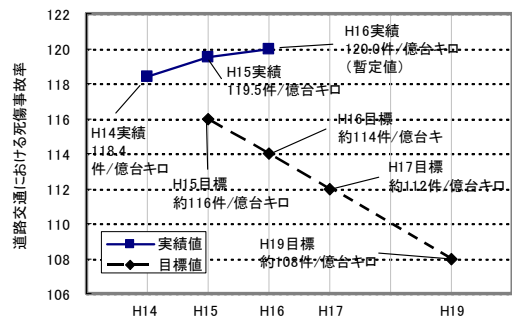
■幹線道路での対策と生活道路での対策の両輪で重点的な事故対策を実施

引き続き「事故危険箇所」及び「あんしん歩行エリア」での重点的な事故対策を推進。

■優先度明示方式(事故率曲線)の一層の活用

昨年度導入した優先度明示方式(事故率曲線)の現場での活用を図るため、作成方法を統一するとともに、地域の実情を踏まえた対策立案に活用。（図8-13）

平成15年度実績	119.5件/億台キロ
平成16年度	実績 120.0件/億台キロ(暫定値)
	目標 約114件/億台キロ
中期的な目標	平成19年度までに約108件/億台キロとする ※その他(p.69記載)
平成17年度の目標	約112件/億台キロ



担当： 道路局 地方道・環境課 道路交通安全対策室